

令和8年度 学力向上のための重点プラン【中学校】 新宿区立落合中学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年5月8日】

授業作り	重点	主体的・対話的で深い学びをとおして確かな知識・技能を身に付けさせ、思考力・判断力・表現力を向上させる。
環境作り		協働学習支援ソフトやデジタルドリルの活用、タブレット端末を使った課題作成・提出などとおしてタブレット端末を活用した学習をより日常化する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では全体として平均点を上回っている。 ・書くことの領域の正答率が比較的低位課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や家庭学習において反復学習を継続することで、知識・技能の定着を図るとともに、国語に対する苦手意識をなくしていく。 ・自分の考えや感じたことを、相手や目的に応じて適切に表現したり、根拠を明確にして文章を書くように指導する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①小テストの実施 ②デジタルドリルの活用 ③自身の考えを文章化し、発表する活動
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査では、知識・技能、思考・判断・表現ともに、東京都および全国の平均正答率を上回っている。 ・知識・技能に関しては新宿区学力定着度調査の平均をやや上回っているが、計算方法を確実に定着させ、より正確に問題を解く力の育成がさらに必要である。 ・思考・判断・表現においては平均的な正答率である。 ・数と式・図形の領域では同調査の平均を上回っている。 ・関数の領域では同調査の平均を下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るために、デジタルドリルの活用も含めて反復学習を徹底する。 ・少人数授業の特性を生かし、一人ひとりの理解度を把握する。 ・数学的な思考・判断・表現に関する課題を意図的に設定し、個別指導やグループ学習で主体的に取り組ませることをとおしてこれらの力を育成する。 ・個別最適化された学習内容に取り組むことができるように、定期的にレポートを作成・提出させることをとおして一人ひとりの学習状況を把握する。 ・関数について反復して学習させることをとおして知識を定着させる。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基礎・基本の習得の徹底 ②デジタルドリルの活用 ③話し合いや学び合い活動 ④場面に応じた発表活動 ⑤レポートの作成 ⑥習熟度別少人数授業の活用 ⑦デジタル教科書の活用
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、知識・技能、思考・判断・表現の両方において、平均を上回っている。 ・化学分野においては、区の平均をやや上回っているが苦手意識をもっている生徒が一定数いる。 ・既習事項のうち、学習後の経過時間が長い内容ほど正答率が低くなる傾向が顕著である。 ・活用問題の正答率が低い傾向がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験に意欲的に取り組ませる指導を継続する。 ・毎回の授業の導入時に前時の振り返りを行い、基本的な用語の理解を定着させる。また、デジタルドリルやワークなどの課題を出し、家庭学習にも継続的に取り組ませる。 ・説明や発表などを苦手としている生徒に対しては、事前に原稿を提出させ添削するなどして、言語の面の支援を行う。 ・実験は、探究的な活動になるように、発問や授業展開を工夫し、科学的な思考の成長を図る。 	<ol style="list-style-type: none"> ①基本事項の徹底 ②デジタルドリルの活用 ③ワークシートの工夫 ④少人数グループによる指導 ⑤場面に応じた発表活動 ⑥探究的な学習活動の実施

<p>社会</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、全体として平均的な正答率である。 ・同調査では、歴史分野の問題よりも、地理分野の問題の正答率が高い生徒が一定数いる。 ・一方で学習内容の定着が不十分なために苦手意識をもち、主体的に学習に取り組むことが難しい生徒もいる。 ・複数の資料から必要な情報を抽出し、関連付けて説明したり、事象について自分の言葉で表現したりすることに苦手意識をもつ生徒がやや増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルドリル等のタブレット端末を活用した反復学習を継続したことが学習内容の定着に一定の成果があったことを踏まえ、今後も継続するとともに、小テスト等を定期的実施し、反復学習の意義・効果を理解させ、社会科への苦手意識を持つ生徒の学習意欲を向上させる。 ・身のまわりの社会的事象を学習内容と関連付けて理解できるようにする。 ・定期的に発表活動を行い、自分の言葉で整理させることで、本質的かつ構造的に理解を深め、思考力の深まりへ繋げる。 ・自分の言葉で説明・表現をする際に、複数の資料を根拠にし、情報を関連付けて論旨を展開する活動をとおして、情報を抽出し、活用する力を育成する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①小テストの実施 ②デジタルドリルの活用 ③生活と関連付けた教材研究 ④話し合いや学び合い活動 ⑤場面に応じた発表活動
<p>英語</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新宿区学力定着度調査では、「基礎」「応用」「教科総合」の全てにおいて区の平均を上回っている。 ・「聞くこと」「読むこと」においては区の平均を上回っているが、「書くこと」に関する項目で区の平均正答率をやや下回っている学年がある。 ・日常的または社会的な話題について、事実や自分の考えなどを、簡単な語句や文を用いて正確に表現する力に課題がある。 ・自分の考えや気持ちを書くことに対して苦手意識をもつ生徒もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の教材などをもとに、日常的、社会的な話題について、概要を捉えたうえで詳細な理解につなげていく指導を計画的・継続的に行う。 ・各単元の言語材料を中心とした多様な表現を用いながら、書くことに関する言語活動の場を計画的・継続的に設定する。さらに、ペアやALT、教員の添削を行い、表現上の正確性向上に繋げる。 ・授業中の生徒の様子を丁寧に見取り、振り返りや単元テストなどの結果等をもとに、生徒の学習状況を適切に把握し、授業計画を立てる。 ・帯活動などで、継続的に書く活動を取り入れる。さらに、間違いやすいポイントを全体で共有しその対策を指導する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①リスニング活動での本文導入 ②単元テスト・パフォーマンステストの計画的な実施 ③振り返りを活用した学習状況の把握および授業計画立案 ④ペアワークやグループワークの実施 ⑤学習者用デジタル教科書やデジタルドリルの活用